

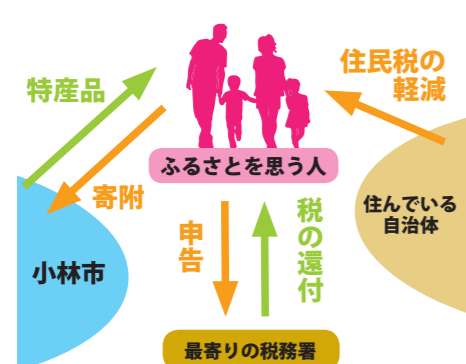
お正月で小林に帰省中の
皆さまへのお願いと
お得情報です！

この機会にもう一度おさらい
年末年始の今だからこそ「ふるさと納税」



年末年始のこの時期、小林市に帰省するご家族も多いことと思います。そこでこの機会に、市民の皆さんに協力いただきたいことがあります。それは、小林市の「ふるさと納税（寄附）」を出身者や帰省中のご家族などに勧めてもらいたいということ。納税（寄附）というと、なかなか勧めづらいかもしれませんが、「ふるさと納税」をしていただくと、金額に応じた特産品が贈られ、寄附したお金も確定申告時に、その多くが戻ってきます。現在、お得なキャンペーンを実施中で、特産品のラインナップも日々強化しています。ふるさと小林市を応援するなら今。そして、その応援していただける気持ちを、小林市は大切にします。市民の皆さんも、ぜひ「小林市ふるさと納税」のPRにご協力ください。●問：総務課Tel 23-0220

●寄附者も、小林市もうれしい「ふるさと納税」。制度をおさらいしましょう



ふるさと納税の仕組み

今年度制度のリニューアルを実施しました

「ふるさと納税」とは、出身地や応援したい自治体に寄附をすると、寄附者の所得に応じて住民税と所得税が軽減される制度。また、寄附者に、自治体自慢の特産品が贈られます。財源の確保だけでなく、地場産品のPRや生産者の売上向上にもつながります。寄附者にとっても、負担以上の価値ある謝礼がもらえるということで、今話題の制度です。市では、今年制度を見直し、第一弾となるリニューアルを行いました。謝礼品の種類は2倍になり、10万円以上の寄附に対する謝礼品の金額も増えました。

キャンペーン期間：平成27年3月31日まで

●ふるさとこぼやし応援キャンペーン

抽選であたる特産品は宮崎牛、太陽のタマゴなど超豪華

期間中、1万円以上の寄附をしていただいた人を対象に寄附額に応じた特産品とは別に、「小林市の銘茶」を全員にお届けいたします。また「抽選券」をお送りし、当選された人には特産品をプレゼントします。特賞「宮崎牛ヒレ肉ブロック1頭分」、1等賞「宮崎牛サーロインステーキ200g×8枚」、2等賞「太陽のタマゴ2～3玉」などと、超豪華。詳細はホームページで。



このキャンペーンは、地域情報サイト「CityDo!」でも取り上げられています。

●目指すは1年で1億円以上。現在の申し込み実績は7838万6813円です。

平成26年度は12月11日現在で、4032件計7838万6813円の寄附申し込みがありました。

●申し込みは、市ホームページでも受付中。支払いは銀行振込や郵便振替で。

「ホームページから」か「申込書」を郵送、ファックスなどで提出することで、申し込みできます。その後「銀行振込」、「郵便振替」、「現金書留」、「現金を持参」のいずれかで支払をすれば完了です。

QRコードを読み込むと「申込フォーム」へアクセスできます



地域資源を発掘し、発信する
てなんど小林プロジェクト
INFORMATION

あなたの作品が
小林のPRに

小林市の価値や魅力をみんなで見つめ直し、磨き、発信していく活動。それが「てなんど小林プロジェクト」です。「てなんど」とは、西諸弁の「てなむ」と「ブランド」を合わせた造語です。「てなむ」は、小林で昔から使われてきた「一緒に」という意味の方言。小林人の持つあたたかさや結の心を表す「てなむ」と、小林市の価値や魅力をブランド化したいという思いが込められています。

各コンテストや募集の応募を受け付けるウェブサイトができました。

応募は1月19日（月曜）まで。「てなんど小林プロジェクト」特設サイトから、写真や動画、西諸弁にまつわるエピソード、ロゴイメージなどを応募しよう！

STEP 1 「てなんど小林プロジェクト」特設サイトを見るには…

- ①「てなんど小林プロジェクト」で検索する。
- ②「小林市公式ホームページ」のリンクから移動する。
- ③QRコードを読み取る。



このQRコードをスマートフォンなどで読み込むと、より簡単にサイトに移動できます。



小林市ホームページ

STEP 2 応募する

それぞれのコンテストの「応募フォームへ」ボタンを押すと、必要事項を入力するページ（応募フォーム）が表示されます。

ネット環境がない人の申し込み方法

応募したい作品はあるが、インターネットを閲覧する環境にない人は、応募したい作品のデータなどを持参し、企画政策課（本庁2階）へお越しください。

西諸弁にまつわるエピソード・思い出募集中

共感？を呼ぶ作品を一部紹介します

18歳の春。私は、大学進学のため東京に行くことになりました。入学式を終え、のぞんだ初めての授業は、英語。教授に当てられ、テキストを読むクラスメイト達。「レベルが高いなあ」と感心していると、いよいよ自分の番に。読み始めてすぐ、クラスに笑い声が上がりました。「どっか間違ったかな」と思っていると、教授が一言「きみ、英語もなまってるね」。わたしの大学デビューは、西諸弁のおかげで、恥ずかしいものに。その後、私はクラスでかわいがられる存在になりました。英語さえなまってしまう西諸弁って、ある意味スゴイ。（T・Kさん）

●応募とお問い合わせは、企画政策課（〒886-8501 小林市細野300番地 / 電話番号23-0456 / ファックス25-1037）まで。

この事業は、宝くじの助成金を財源として実施しています。

